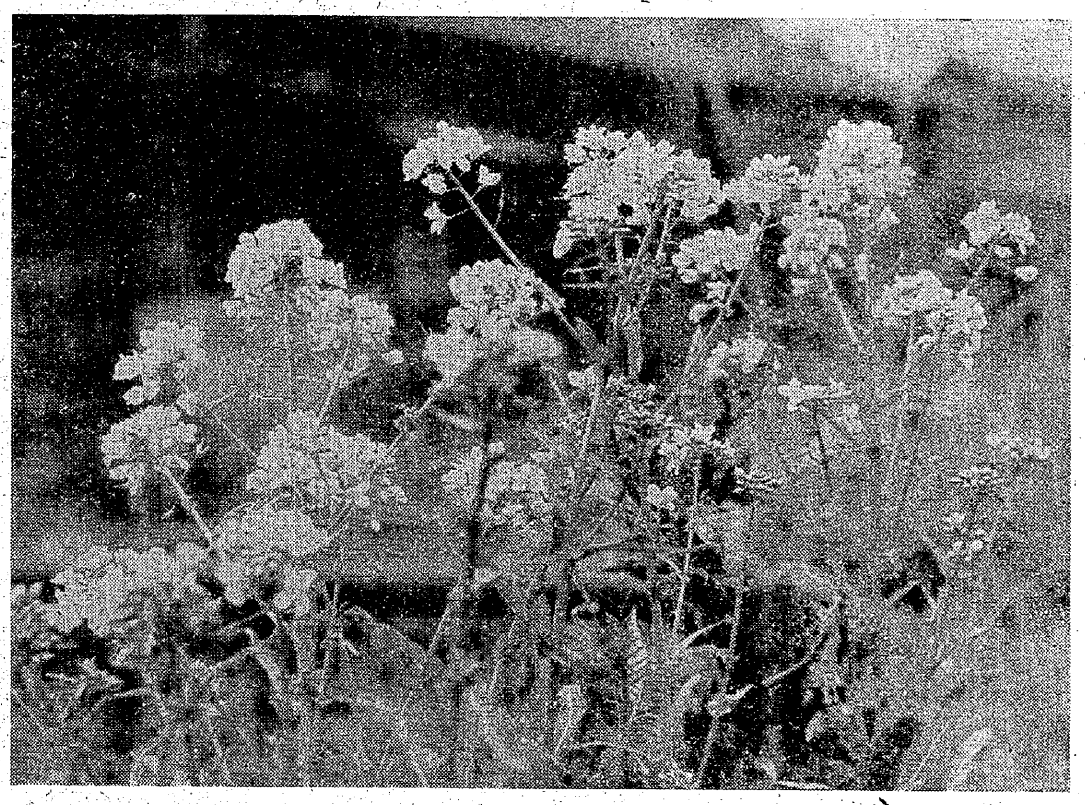


ここは大砂社宅の一隅。黄いろい菜の花が、ひときわあざやかに咲きほこつていた。春を呼ぶように……。

送別会のこと

楓分会　一主婦

三池闘争から今日まで、家に移転していかれる人をかこんでのお別れの集会でした。

昭和二十三年から緑ケ丘の楓町に住んで、主婦会結成に参加し、数かずのたたかいにくじけず三本線を守り通した仲間と別れるつらさ。そのつらさをかみしめる中で、誰からともなく三池の主婦の子守唄にはじまり、炭鉱の娘、手のひらの歌、炭婦協の歌が広がり、荒木栄さん（故人。うたごえ運動の指導者）から指導してもらって労働歌を合唱すれば、今は一人ひとりの頭の中に、二十数年間の思い出が涙になり、笑顔になり、走馬灯のようにうかんで来ました。涙がきらりと光る皆の顔には、それでもよく停年まで耐えてきたという誇りがあふれていて、仲間と別れる淋しさの中にも胸がじいんとなりました。

別れの宴はやがて踊りとなり、いつもは踊りなどまったく踊らない奥さんまでが、歌って踊っての大奮闘でした。次にはパートナーを選んで社交ダンスが始まるにぎわいで、夜遅くまで涙と笑いのうずに包まれた集会でした。

今私達の目の前には七七春闘が、統一問題がたちはだかっています。お互いに体に気をつけながら、力一杯がんばらなければなりません。

また、運動には停年はありません。停年の皆さんも今後は、地域でがんばって下さい。働く者の幸福のために一歩でも前進していきましょう。

×

主婦の皆さん、この欄を皆さんのご投稿で豊かにしていきましょう。

四月の暦

（うずき）

1日　エイプリル・フール。新学年。
7日　世界保健デー。
8日　灌仏・花まつり。
10日　婦人の日。（婦人週間）
11日　メートル法公布記念日。
17日　土用。
18日　特定休日。発明の日。
20日　通信記念日。郵便週間。
29日　天皇誕生日。

×

【連合通信】が伝える気象協会の予報によると、四月上旬の初めごろは雲が多い日が続き、これを過ぎると穏かな日々になるとのこと。しかし、高気圧が北に傾くと肌寒い日もくる、とされています。気をつけましょう。

四月は、冬服や暖房器具をしまう時期。クリーニング店からうけ取って、ビニールのまましまわずに、一度乾燥させましょう。

それに新学期の月。学用品の準備が大変です。子どもがせがむままに買い与えるのも、感心できません。じっくり考えてからにしたいものです。

かんじんの国民春闘が、いよいよ燃えあがるのも四月です。私たち炭鉱労働者にとっては、大変重要なときとなります。

もともと、独占資本の低賃金政策・低労働条件での支配の下で、もっとも抑さえつけられている炭鉱労働者。全国の労働者と手をとって、団結しましょう。人間として生きるための権利の獲得は、労働者である以上、資本と手をにぎっていてはのぞめませんから。

新労組員のなかまとも手をとり合って、前進していきましょう。

×　×

主婦の座談会——三池主婦会新聞から

もりあがらない春闘×××××××

苦しいのに、なぜ？

三池主婦会は、三月十日十数人の主婦会員に集まってもらい、春闘座談会を開きました。赤字家計をささえながら苦労している主婦会員たちが、今果たして何を考えているか、ともかく率直な言葉を聞くことにしましょう。（この項は三池主婦会しんぶん＝三月十八日発行＝から転載させていただいたものです）

もりあがらぬ春闘

——今年の春闘について、どう考えていますか。

▼「これだけ資本家や政府から痛めつけられているのに、春闘へのもりあがりが少くない。私自身もそうですが、たとえ要求してたかっても、取れる額が少ない、というあきらめがあるのではないでしょうか」

▼「今まで、要求額と妥結額の差があり過ぎてきたので、かまえがゆるんでいるのではないでしょうか」

▼「生活実感から出た要求額ですから、妥結額を少しでも要求に近づけていくよう、みんなでがんばらなければ……、と思います」

病気したら大変

——今の暮らしから考えて、率直にいえば、賃上げ要求額はどのくらい必要ですか。

▼「五万円はほしいです。お父さんひとりの働きで、家族が食べられる賃金がほしいから」

▼「人間らしい生活をするにはそれだけはほしいですね」

——みなさんのお家の現在の、生活実態はどうでしょう。

▼「昨年の夏に子どもたちを旅行につれていきましたが、国鉄、バスなどの値上がりで、今年はつれていけそうにもありません」

▼「夫が病弱のため共働きですが、とても物価の値上がりに追いつけず、毎月赤字でのやりくりに頭を痛めています」

▼「働きにいっていましたけど、体が弱いために今は家にいます。子どもたちが、早く病院にいくようにいいますが、入豊のことを考えますと心細くなり、寝こむまでいけそうにないですね」

▼「先日テレビで、五人のうち四人の人は春闘に関係がない、といっていました。たった一人の人が、『春闘で大手の労働者の賃金が上がることは、自分たちの賃金にも必ず影響するから大いにたたかい、賃上げを勝ち取ってもらいたい』、といっていました。私は、春闘を考えないという四人の人たちのような人びとに、春闘の意義を強く訴えていくことが必要だ、と思います」

▼「同じ商店に働く春闘無関心の人へ、労働者の賃上げがあってこそ商店街もうるおう。たとえ、大会社はどんなにもうけても、荒尾や大牟田などに金は少しも落としはしない、ことを話していきましたら、少しわかってもらえたようです」

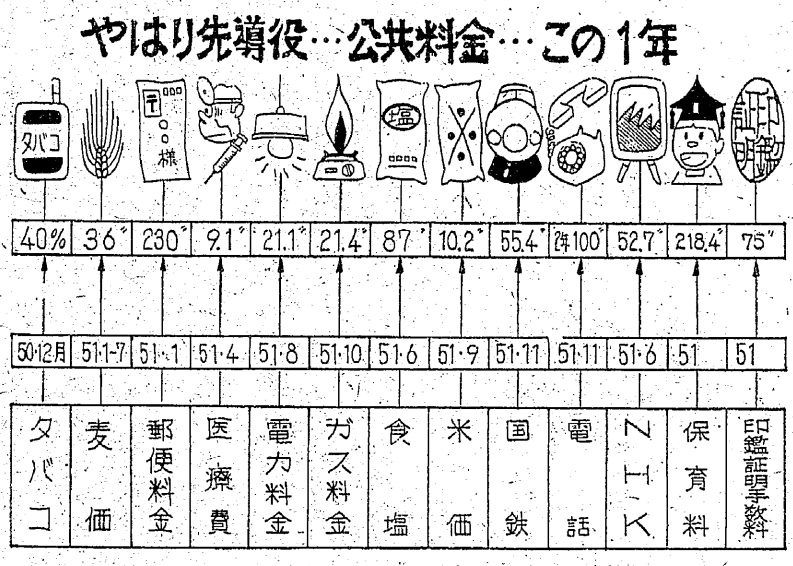
やっぱり政治変革

——仕事先でのかまえは、どうでしょう。

▼「市職でヘルパーの仕事をしていますが、人事院勧告で賃上げがされるので、たたかいへの意識が弱いですね」

▼「パートで毎日三時間ずつ働いて、最低賃金すれすれです。今年は、職場のなかまと話し合ってみたいけど……」

▼「物価値上げ、不況への不満は、政治を変えないかぎり、根本的な解決はできませんね。そのためにも、春闘勝利にもまして大事なのが参議院議員選挙での勝利ではないでしょうか。炭労要求をまず満額勝ち取って、その力を参議院議員選挙へ向けてゆく。とにかく、がんばりましょう」



短歌

指導部旅行

宮浦指導部　平田光男

耳納山泰然自若緑なす明日への希望姿教える

悠然と流れる川もひと昔怒り狂うて人をも流す

停年の顔を迎えしバスの中心知り合い酒くみかわす

指導部長柔和な顔に力あり英気培かう信頼厚く

×

右の短歌は三月二十日、宮浦指導部統一行事——原鶴温泉レクレーションについてうたわれたもので、わざわざ平田さんが編集部までもってきて下さったものです。ありがとうございました。

編集部からおねがい

主婦の皆さん、皆さんのお力添えでこのページもじだいに豊かになってきました。これからも、大いに本紙に、ご意見やご要望をお出しください。